

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

八百津町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的（文部科学省実施要領より）

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

○全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

○学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学校・対象学年

①対象学校・・・八百津町内全公立小中学校〔小学校 4 校、中学校 2 校〕

②対象学年・・・小学校第 6 学年、中学校第 3 学年

(3) 調査内容

① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、（中学のみ理科）〕

※理科はCBTによるIRTスコア方式による

② 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

(4) 調査日 令和 7 年 4 月 1 7 日(木)

※理科は学校ごとに指定した日に実施

2 教科に関する調査結果の分析

（分析の記述後段の数字等は問題番号。調査問題等は国立教育政策研究所HPで公開されています。）

小 学 校

◇よくできていること

【国 語】

- ・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること・・・1三（1）
- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること・・・1三（2）
- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の關係に注意したりして、文章の構成を考えること・・・2一
- ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと・・・3一

【算 数】

- ・分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加法と被加法が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること・・・3（2）
- ・簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと・・・1（3）
- ・小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えること・・・3（1）
- ・平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること・・・2（1）

◆考えていきたいこと

【国 語】

- ・ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること・・・2三
- ・ 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること・・・2二

【算 数】

- ・ 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと・・・4(4)
- ・ 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること・・・1(2)
- ・ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること・・・3(3)

中 学 校

◇できていること

【国 語】

- ・ 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること・・・2四
- ・ 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること・・・1二

【数 学】

- ・ 多角形の外郭の意味を理解している・・・1
- ・ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること・・・7(2)
- ・ 相対度数の意味を理解している・・・5

【理 科】

- ・ 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すこと・・・5(2)
- ・ 地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できる・・・8(1)
- ・ 塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身についている・・・1(5)

◆考えていきたいこと

【国 語】

- ・ 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること・・・4一
- ・ 表現の効果について、根拠を明確にして考えること・・・3一
- ・ 文百に則して漢字を正しく使うこと・・・1一
- ・ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫

すること

・・・ 2 二

【数 学】

- ・ 事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげる
こと ・・・ 6 (1)
- ・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること ・・・ 8 (2)
- ・ 事象に則して、グラフから必要な情報を読み取ること ・・・ 8 (1)
- ・ 目的に応じて指揮を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ
理由を説明すること ・・・ 6 (3)

【理 科】

- ・ 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生
命を維持する働きに関する知識が概念として身についている ・・・ 1 (4)
- ・ 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定で
きる ・・・ 1 (2)

3 今後、さらに学力向上を図るため推進すること

- 個に応じたきめ細かな指導を充実し、どの子にも、基礎的基本的な知識や技能の
定着を図る授業を行う。
- 学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな
考え方に気付いたりする活動を積極的に取り組む。
- 授業において、単元の見通しをもち、「本時のねらい→課題→学習活動→定着の評
価」の過程を確立させ、ねらいから評価までの一体化を図る。
- I C T 機器（電子黒板・タブレット端末等）を用いて文書作成や情報収集、情報
整理をする技能を高め、デジタルドリル等学習用アプリを効果的に活用した授業
展開の工夫。
- 家庭との連携を充実し、タブレット端末を活用した家庭学習の定着を図る。
- 読書活動や授業における教材と関わらせた読書活動の充実を図る。

4 生活習慣や学習環境に関する調査結果の分析

小学校

◇ 良い結果であったこと。

- ・ 人が困っているときに進んで助けている。
- ・ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うこと。
- ・ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い。
- ・ 朝食を毎日たべること。毎日同じ時間に寝る、起きること。
- ・ 先生は、自分の良いところを認めてくれていると思うこと。
- ・ 自分には良いところがあると思うこと。
- ・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っていること。

- ・学校に行くのは楽しいと思う。
- ・人の役に立ちたいと思うこと。
- ・将来の夢や目標を持っていること。
- ・友人関係に満足している。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていること。

◆考えていきたいこと

- ・PC・タブレットなどのICT器機を、家庭学習で適度に活用すること。
- ・読書機会を増やすこと、読書時間の確保。

中学校

◇良い結果であったこと

- ・朝食を毎日たべること。毎日同じくらいの時間に起きること。
- ・自分には良いところがあると思うこと。
- ・先生は、自分の良いところを認めてくれていると思うこと。
- ・人が困っているときに進んで助けている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うこと。
- ・人の役に立ちたいと思うこと。
- ・学校に行くのは楽しいと思う。
- ・友人関係には満足している。
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い。

◆考えていきたいこと

- ・自分と違う意見について考えることが楽しいと思えること。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫すること。
- ・読書機会を増やすこと、読書時間の確保。
- ・PC・タブレットなどのICT器機を使った情報収集能力や情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）能力等の向上。

5 今後、生活全般において「生きる力」をさらに育成するために

- すべての子どもたちに、地域や社会のために役立つ『夢・志』をもてるようにしていく。そして、その実現のために一緒に考え努力させていく。
- たくましく生き抜いていく子どもを育てるために『生きる力の育成』を図っていく。子どもたちに、『確かな学力』、『思いやりの心』、『健康や体力の向上』などを一層磨き、一人一人を輝かせていく。
- 『子どもたちを磨き鍛えること』、『関わり合いの教育を進めること』、『当たり前のことは当たり前でできること』に、こだわっていく。
- 地域とのつながりを大切にしたい取組の充実を図る。